

2018年11月26日

各位

会社名 株式会社フーバーブレイン
代表者名 代表取締役社長 興水 英行
(コード: 3927 東証マザーズ)
問合せ先 取締役管理部長 石井 雅之
(TEL. 03-5210-3061)

新製品の開発及び販売に関するお知らせ

当社は、クライアント PC 上の操作内容を記録、集計して、業務分析する経営管理プログラム「PasoLog」のクラウドサーバー提供版における基幹開発を完了し、2018年11月26日開催の取締役会において、下記の通り、自社ブランド製品「PasoLog Cloud - Eye “247” (アイ・トゥエンティフォー/セブン) - (仮称)」として製品化を行うことについて決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 製品化に至るまでの経緯

IoT、ビッグ・データ、人口知能 (AI) 及びロボット等の先端技術があらゆる産業や社会生活に導入される、第4次産業革命と言われる社会モデルの変革が起こりつつあります。

当社は、この第4次産業革命を中長期の成長エンジンとして取り込むべく、マルウェア対策に代表される「情報の保護」から、経営資源として戦略的な「情報の活用」へと事業領域を広げ、「セキュリティ+α」を意識して、新たなマーケティング及び新規事業並びに新製品の開発に取り組んでおります。

一方、市場においては、政府による「働き方改革」の推進や足元の人材不足の深刻化に対応するため、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方を認めることと、情報通信技術を利用して従業員の勤務実態を把握し、労働生産性を損なわないようにすることとの両立を助けるためのツールに対する需要が強まっております。

このような中で、「PasoLog Cloud - Eye “247” (アイ・トゥエンティフォー/セブン) - (仮称)」は、クラウド化によって、社員の使う情報機器が社内 LAN ネットワークの内側、外側に存在するかにかかわらず、その操作内容を分析可能とする経営管理プログラムであり、クラウド化されてこそ、「働き方改革」の大きな需要を取り込む不可欠の要素として機能するものとして期待しています。

また、クラウド化することによって、当社は導入された情報機器の操作情報を適時に入手することが可能となり、従って、当社がお客様に代わって、AI を利用して社員の業務をモニタリングすることが可能になります。このように、クラウド化は、当社が将来的にビッグ・データ解析による戦略的な情報活用ビジネスをすることの可能性を広げる土台となる、非常に重要な製品戦略としてとらえております。

以上のように、戦略的な位置づけをもって、当社は、「PasoLog Cloud - Eye “247” (アイ・トゥエンティフォー/セブン) - (仮称)」の製品化を決定いたしました。

2. 新製品の概要

(1) 商品名

「PasoLog Cloud - Eye “247” (アイ・トゥエンティフォー/セブン) - (仮称)」

(2) 特徴

・クラウド

クラウド化に伴い、就業場所にとらわれない操作情報の収集によって、内部の不正早期検知、従業

員働き方分析、業務負荷等を早期にどこでも確認する事が可能。

- ・働き方分析機能

情報機器の操作情報から、会社全体から個人まで任意のセグメントでの分析が可能となり、働き方改革が可能。

- ・従業員業務可視化機能（内部統制対策）

情報機器別分析（メール、ブラウザ、office、ソフトウェア等の使用時間を可視化）、USB メモリ使用履歴、印刷履歴、印刷枚数等を可視化。

- ・IT 資産管理機能

社内の情報機器を一覧で表示し、セキュリティソフトをはじめ、各 PC にインストールされている全ソフトウェアを可視化。

3. 日程

(1)	取締役会決議日	2018年11月26日
(2)	販売開始日	2019年4月以降（予定）

4. 新製品の製品化のために特別に支出する額

軽微と見込んでおります。

5. 今後の見通し

本件が、当社の当期の業績に与える影響は軽微であると見込んでおりますが、中長期的には売上高増加に寄与することが見込まれます。

今後開示すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

以上